
将来は何になる？

上白沢

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

将来は何になる？

【著者名】

Z4918P

【作者名】

上白沢

【あらすじ】

将来何になるか？

そんな事を悩んでいる少年と家なし少女とその友達がおくる日常生活？がいま始まります。

始まりは、行き倒れ？（前書き）

初めて小説をかきます。

間違えばかりですけど、がんばって行きます。

始まりは、行き倒れ？

チュンチュン

外で雀がさえずっている。

時計は、朝7時をさしている。「あと五分……」

ドタドタドタドタ バタン！

「オッキローー！朝だバカヤローー！」

「気にするなバカヤロー……」

「実の兄が冷たい！これがいわゆる家庭崩壊なのかあー！」

「ああもう騒がしくて寝れないじゃないか！今何時だと思ってるんだ！」

「朝の8時だよ？」

「な、に？」

「だから、朝の8時だとてば。早く学校に行かないと遅刻だよ？」

「なにーーー8時だとーーなぜもーと早く起こさないのだあー！」

「だつて昨日お兄ちゃんが8時までは、絶対起こすなって、起こしたら次からは、俺の隣に女の子を置いて起こしづらい状況にしてやるって脅すから」

「そんなの真に受けんなー！」のむちゃんが…

「ひ、ヒド～よ逆切れだよ～」

ドタバタドタバタ

「へんなああのバカ共は。」

「あら、良こじやありますか？ 伸田朝から楽しいわよ。」

「まあな

ダダダダダバタン！

「母さん飯！」

「ハイハイ、準備してあるわよ」

「頂きます。」

もぐもぐ

「うるせーわおーたー（うれしかったー）」

「行つてもーす」

「うつてうつしゃい。」

「行つてこバカ共。」

慌ただしい朝は、いつも通りだ。

キーンコーンカーンコーン

「到着！ふーっ危うく遅刻するとこだつたぜ。」

「よつ、ギリギリだつたな。」

「誰だ貴様は？」

「ひど！親友への朝の第一声がそれかよ？」

「冗談だ。おはよう佐藤。」

「ああおはよ。だが、俺の名前は沢下だ！」

「そんな名前だったのかお前？全く近所の犬と間違えたじやないか。」

「

「犬名前が佐藤かよーどんな嘘だよー。」

「いや本当だし。」

「本当なのかよー。」

「いちいちウルサいなーお前はツツコミ役には向いてないから黙つてろ雄輝。」

「悪かつたよーツツコミもこくなくなあー。」

ダダダダダガラッー！

「シロちゃんねつせよーー。」

「ぐるーー。」

「ねつせよーいわそ心結。」

「余ごたかつたよー。」

「昨日も余つてゐね。」

「毎日会いたいんだよ。」

「あつや。まあそれは、いいとしてそろそろ週にてやれ。雄輝が白眼むいてやがる。」

「あつ」めんなさ。大丈夫コウくん

「へ、つーん目覚めのキスをしてくれたら、起きれる。」

「それ無理。私にはシロちゃんがいるから。」

「うわーん。朝からのひかよ。ついやましこだチキシローー。」

「彼女じゃないけどね。」

「彼女以上だよね」

「芝「今までの関係だよそれ？」

「奥さんでしょ？」

「何時からだよ！」

「運命なの！決まってたことなんだよ。」

ガラガラピシャリ！

「お前ら一ウセツーねりと席につきやがれ！」

二十一

担任の森直人の声により席について。

「ホームルーム始めるぞ。今日は、後で進路希望の紙を渡すから、明日までに俺に持つてこい以上

なんて適當な担任なんだ。まあもつさんのおいこいにいわせ、話しあがりがつたりするから、いいところなんだよなあ」とかを考えながらプリントを眺めていた。すると、

「なあシロお前進路決まつてんの?」

「いや、まだだ。」

「それが何なの？」

「家は継がないの？」

うちは、老舗の料亭を営んでいたが、親は、全く強制しないので、

続1「うとほ、考へてない」

「考
え
て
な
い。
お
前
は
?」

「う～ん。一応は、大学進学かな～」

「みんなそんなもんかなあ。」

「あのねあのね私はね、シロウヤんのお嫁さんだよ。話にわって入つてくる心緒。

「その希望は、来世で叶えてあげるな。」

「現世がいいよ。まあ来世もだけじね。」

「つまー俺も彼女欲しいー。」

「来世でな

「俺のもかよー。」

そんな話をしながら今田の授業を受けた。

放課後

「ちと帰るか。」

「俺は用事があるから、また明日な。」

「う～ん。」
「あんねシロウヤん。私も委員会あるから、また明日一緒に帰ろ

「お～、また明日なあ～。」

今日は、珍しく独りで帰ることになった。

「進路があ～ビリじょうかなあ
なんて考えながら歩いていると、倒れている女の子をみつけた。とい
つより、どちらかといつとつ伏せで何かしていた。

「なにしているんだ?」

少し気になつて近づいて聞いてみた。

「何しているの?」

女の子は、振り返つて言った。

「水を飲んでる。」

「水を飲んでる?」

「クリと彼女は、頷いてまた水を飲み始めた。
つてダメでしょー。」

「いやいや、ダメだよ水溜まりの水なんてー。」

「?」

「?じゃなくて、体壊すよー。」

「水飲まないと倒れるし、お腹空く。」

「水溜まりの水を飲んだら、お腹壊すよー。」

「私に死ねつて置つの？」

「ちうじやなくて、自販機でジュースでも買えぱいいじやん！」

「そんなお金ない。」

「なら家まで我慢すればいいじやん！」

「家ない。」

「？」

「家がない？」

「クンとまた彼女は頷いた。

なんてこつた。家出がなんかかな？警察に連れてくか？

バタリ女子は、倒れた。

「わああ大丈夫！ねえおいつてば！」

どうしそうへこの場に残すわけには、いかないよなあ

「仕方ない家に連れてくか。」

これが、彼女との初めての出会いだった。

始まりは、行き倒れ？（後書き）

何とか書いてみました。

次話は、来週辺りまでに書けたらなと思います。

感想など会つたらよろしくお願ひします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4918p/>

将来は何になる？

2010年12月14日08時07分発行